

特報**第64回日府展****文化庁、東京都
後援が決定**

一般社団法人
日本画府
〒176-0023
東京都練馬区
中村北 1-13-18
練馬スカイホーム7F
発行 事務局総務部
発行日 不定期

日府展ではこれまで長い間、日本画、洋画、彫塑、工芸の4部門の構成で、事業を実施してきました。一方、社会の少子高齢化の影響をまともに受け、会員数の減少と高齢化が進んできました。

この事態を打開すべく、第62回展では試みとして水墨画と写真に範囲を拡げて募集し、第63回展からはそれぞれが正式な部門として発足しました。これにより日府展は、6部門を擁する総合美術展として再発足し、業界でも注目を浴びました。さらにこれをきっかけとして、これまでの硬直した運営方法にも、いろいろ見直しの機運が芽生え、特に昨年秋からは目標を明確にして、積極的に活動してきました。

その成果として、先ず第64回日府展に文化庁と東京都の後援が得られました。それ以外にも以下に述べるような幾つかの点で、大きな改正がおこなわれました。この「日府展ニュース」の発行もその一環で、今後不定期ですが本会の現状や改正点について、皆様にお知らせして行く予定です。皆様の忌憚のないご意見も頂戴したいと思います。

直接面談することが大切

この度、第64回日府展に対して、文化庁および東京都から後援名義使用の許可が得られました。名古屋展では以前から、愛知県、岐阜県、名古屋市やそれらの各教育委員会の後援を得ており、さらにそれらの賞も交付されていました。しかし東京展では都道府県の後援も賞も一切無く、関東地方の会員は寂しい思いをしてきました。

昨年の秋、先ず東京都の後援を得るべく活動が開始されました。昨年11月末、青木事業局長と浅野事務局長が東京都の担当部門を訪れ、日府展の歴史や活動実績について説明し、東京都の後援を得たい旨を伝えました。担当者からは「何故もつと早く申請しなかったのか」と励まされました。その後、書類を整えて正式に申請した結果、1月に後援名義使用が許可されました。

続いて今年3月半ば、水墨画の千野理事と浅野

事務局長が文化庁を訪問し、後援を得たい旨を伝えたと、同様に正式書類をもって申請するという指導を頂きました。後ほど書類を提出した結果、申請後わずか10日で許可がおりました。

文化庁の後援を得るには、都道府県の後援を得ていることが前提で、今回は都合良く事が運びました。申請書類の作成にはかなりの時間を要しましたが、いずれも一度でパスして、無事承認されました。

東京都の後援を得て実績を積むと、東京都知事賞の交付を申請できるようになり、同様に文化庁後援の次には、文部科学大臣賞の交付を申請できるようになります。順調に運べば、第65回記念展には2つの大きな賞が並ぶかも知れません。

今後とも事務局と事業局が協力して活動する予定です。なお文化庁後援は東京展、名古屋展の両方で、東京都後援は東京展だけに適用されます。

外部審査員を招聘

今回から出品作品の審査に外部審査員を招聘することになりました。

これまで審査は、全て日府展会員の中から選出された審査員が行って来ました。この度東京都および文化庁の後援を申請した際、外部から審査員

を招聘するように強く勧められました。後援を得る段階では外部審査員の招聘は義務ではありませんが、次のステップで文部科学大臣賞や東京都知事賞を申請する段階では、それが必須条件になります。そのためのにも、今回から外部審査員を入れるよう勧められた訳です。

(次ページへ)

【編集後記】**報道員募集!** 冒頭にも述べたように、この「日府展ニュース」により、会員の皆様に日府展の現状などを紹介していく予定です。次号からは各部の紹介記事も掲載しようと思います。そこで各部の報道員を募集します。若い人大歓迎です。自薦・他薦で事務局までご連絡ください。当面は各部の**総務担当者**に依頼します。

(前ページより)

本会としても時代の趨勢を見て、その必要性を強く感じていましたので、迷うことなく勧めに従うことにしました。

今回は評論家清水康友氏、美術鑑賞社社長藤谷弥道氏の2名に審査員を依頼し、承諾を得ています。これに伴い審査要領も改正され、従来より透明性の高いものとなります。

受賞作品の表示方法を変更

受賞作品の表示方法も変更されます。

これまで「東京新聞賞」と「毎日新聞西部社会事業団賞」は東京展だけで、また「愛知県知事賞」、「岐阜県知事賞」、「名古屋市長賞」および愛知県、岐阜県、名古屋市の各「教育委員会賞」等は名古屋展だけで表示されてきました。このため受賞者から、東京展で受賞した作品が、名古屋展では表示されず悲しい思いをしたなどの、不満の声が出ていました。

この点についても見直しが行われ、今回から、受賞作品の表示は東京展でも名古屋展でも同様に行われることになりました。

招待出品制度の新設

新たな試みの一環として、招待出品の制度も設けられました。

日府展の外で活躍し優れた作品を発表していて、日府展の事業に賛同している作家に、日府展への出品を依頼する制度です。「招待出品」と「賛助出品」の2つの種類を設け、出品料や図録掲載料を無料もしくは割引とします。

招待／賛助出品に相応しい作家がある場合、各専門部の部長から理事会に申請され、承認された場合にそれが認められます。

この制度により、これまでの日府展の殻を破り、新しい風を吹き込んでくれるような作品が出品されることが期待されます。

新しい役員体制が発足

(注)氏名は雅号で表記しています。
登記は本名で行われています。
月見里はヤマナシとお読みします。

4月9日の定時総会において役員の改選があり、新しい執行部がスタートしました。

理事、監事 (50音順)

理事 南部 祥雲 (代表理事、常任理事)
 // 青木九仁博 (副理事長、理事長代行、常任理事)
 // 廣島 樹 (副理事長、常任理事)
 // 浅野 皓三 (常任理事)
 // 小田 半内 (常任理事)
 // 今岡 久幸
 // 大澤 安正 (新任)
 // 加納 啓子
 // 小室 禮子
 // 佐藤 勝昭 (常任理事)
 // 清水 和子
 // 田代 和豊
 // 棚木 香絵
 // 千野 曜生 (新任)
 // 塚田 稔 (常任理事)
 // 中野内敏伸 (新任)
 // 羽田壽恵子
 // 増子 一秀
 // 松井 陽水 (新任)
 // 森 晃徳 (新任、常任理事)
 // 柳 重栄
 // 山田 大作
 // 月見里大雪 (新任、常任理事)
 監事 小林 裕子
 // 村上 文紀

本部組織

理事長 南部 祥雲
 事務局長 浅野 皓三
 総務部長 浅野 皓三
 厚生部長 小林 裕子
 経理部長 佐藤 勝昭
 出納部長 浅野 皓三
 事業局長 青木九仁博
 事業部長 塚田 稔
 研究部長 柳 重栄
 出版部長 廣島 樹
 日本画部長 廣島 樹
 水墨画部長 月見里大雪
 洋画部長 塚田 稔
 彫塑部長 小田 半内
 工芸部長 青木九仁博
 写真部長 森 晃徳